

東日本大震災から学ぶ私たちの未来

満10年を迎える東北の被災地に私たちが学ぶべきこと

プログラム

◆ごあいさつ

水口 章（敬愛大学総合地域研究所 所長）

◆若者からのメッセージ

（本学学生）

澤 美穂（国際学科2年）

岩月 檀（こども教育学科3年）

宮野 哲平（こども教育学科4年）

（本学卒業生）

ギミル ハリ パラサド（国際学科卒業）

千葉大学 グローバル関係融合研究センター 特任研究員

マハルジャン シャム（国際学科卒業）

株式会社ベイシア マーケティング本部 e-コマース部 勤務

薩美 竜登（経済学科卒業）

株式会社サイサン 勤務

江面 史帆莉（旧姓：月安）（国際学科卒業）

主婦

（協働大学学生）

下山 陽子（尚絅学院大学 総合人間科学部 健康栄養学科 4年）

ボランティアチームTASKI

玉之内 菖（聖学院大学 心理福祉学部 心理福祉学科 3年）

復興支援ボランティアチームSAVE 代表

◆基調講演 「3.11を学びに変える」

佐藤 敏郎 先生（一般社団法人Smart Supply Vision特別講師）

1963年、宮城県石巻市生まれ。宮城教育大学卒業後、中学校の国語科教諭として宮城県内の中学校に勤務（2002年から3年間は女川町生涯学習課勤務）。2015年3月退職。

東日本大震災当時は、宮城県女川第一中学校（現在の女川中学校）に勤務。震災後の2011年5月、生徒たちの想いを五七五に込める俳句づくりの授業を行い、テレビ、新聞、書籍等で紹介される。2016年度の中学校1年生の教科書にも掲載されることになった。

震災後は女川中学校、矢本第二中学校で防災担当主幹教諭、宮城県の防災教育副読本の編集委員も歴任。

震災で当時大川小学校6年の次女を亡くす。2013年末に「小さな命の意味を考える会」を立ち上げ、現在は、全国の学校、地方自治体、企業、団体等で講演活動を行う。2015年からは、震災当時小学生だった高校生が若者とディカッションを行う企画「あの日を語ろう、未来を語ろう」を各地で展開。2016年「16歳の語り部」（ポプラ社）を刊行、「平成29年度児童福祉文化賞推薦作品」を受賞。

小さな命の意味を考える会代表、NPOカタリバアドバイザーの他、ラジオのパーソナリティー（東北放送ラジオ、FMたいはく）としても活動



◆謝辞

中山 幸夫（敬愛大学副学長、地域連携センター長）

（進行） 藤森 孝幸（敬愛大学地域連携センター 室長）